

# 環境学習施設の つくり方

—地域に多面的価値を創出する施設—

環境にやさしい施設に学ぶ

東京都品川区

「エコルとごし」「容器文化ミュージアム」



環境学習施設研究部会では、毎年日帰り視察研修会を開催しています。今回は2023年12月にお伺いした、東京都品川区にある二つの環境学習施設をご紹介します。

まず一つ目の施設は、自然豊かな戸越公園内にある、環境学習と憩いの場である、品川区立環境学習交流施設「エコルとごし」です。「つなぐ」つづける つくりだす エコなミ



エコルとごし

ライへ」をキャッチコピーとしたこの施設は、体験型展示や多彩なイベント・講座で、環境を楽しみながら学ぶことのできる場所で、東京都内の公共建築物としては初めて「Nearly ZEB (ニアリーゼブ)※1」の認証を取得し、省エネと創エネにより消費エネルギーゼロを目指した建築物となります。

セントランスを抜けると天井が高く、公園と一体感のある広々としたコミュニティラウンジがあり、誰もが自由に過ごせる憩いの場となっています。木の温もりが溢れる居心地の良いスペースで、休憩や読書をしている人、勉強をしている学生や、キッ



コミュニティラウンジ

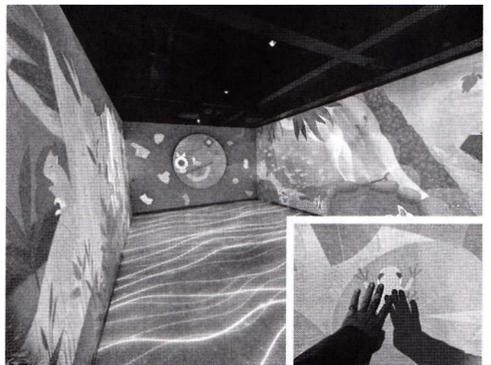
ズスペースで遊ぶ親子など、近所の方々が思い思いに過ごしていました。

3階の多目的スペースで担当者的方々から施設の説明を受けた後は、映像展示、常設展示、メッセージ展示を案内していただきました。映像展示では、「地球温暖化対策」をメインテーマに、床・壁一面のダイナミックな映像空間で、壁に手でタッチして都市と自然の「バランス」や「いきもの」とのふれあいを体験できるプログラムで、対象年齢に合わせて2種類用意されており、大人も十分に楽しめるものでした。常設展示「トイカケのジカン」では、1秒・1日・1年・10年の時間軸をテーマ



常設展示「トイカケのジカン」

に、さまざまな仕掛けを通して、身近な視点で自分と環境との関わりを学べるものでした。メッセージ展示



映像展示「いきものタッチ」



人と容器の関わり



文明の誕生と容器の関わり



容器包装の今

※1 「ZEB」(ゼブ)とは、「Net Zero Energy Building (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)」の略称です。快適な室内環境を保ちながら、省エネにより使うエネルギーを減らし、太陽光発電などでエネルギーを創り出すこと(創エネ)で、建物で使うエネルギーの収支をゼロにすることを目指した建築物のことです。

●連絡先●

環境学習施設研究部会

([https://www.facebook.com/facilities.env.edu.888/?locale=ja\\_JP](https://www.facebook.com/facilities.env.edu.888/?locale=ja_JP))

「環境学習施設研究部会」で検索すると、(一社)廃棄物資源循環学会環境学習施設研究部会のページがでてきます。同部会がfacebookの「環境学習施設を考える会」も運営しています。

では、この施設で体験したこと、学んだことを振り返り、100年後の「ミライ」へのメッセージを描いて、100年先の未来を守るために、自分たちが今できることは何かを考えたきっかけ・共有の場でした。

施設の建設に当たっては、工事現場の電力は再生可能エネルギー100%のものを使用し、重機等の燃料においても、天然ガス由来の環境にやさしい燃料を使用するなど、徹底的に環境影響に配慮されており、施設の内装材には、品川区と交流・連携のある自治体の木材を多用して、森林の健全な育成にも貢献しています。また、大きな庇のあるデッキや自然の風や室内外の温度差により自

然換気を行う重力換気窓など、施設のあちらこちらに環境へ配慮された工夫がありました。

見学後の質疑応答では、発注方法について設計・施工業者、展示業者、運営業者等の分野に分けずに、設計・施工から運営にいたるまでをパッケージとして組み込んだプロポーザルを行ったということで、行政としての画期的な発注方式だと感じました。

二つ目の施設は、東洋製罐グループの本社ビルの1階にある「容器文化ミュージアム」です。この施設は容器のことを皆さんに知っていただくとうと、自社の製品に限らず展示し人の暮らしを便利で豊かなものとするために、考え、作られ、利用され

てきた容器包装の中に隠れているさまざまな秘密を「ひらく」施設です。こちらの施設もスタッフの方から丁寧に説明いただき、人と容器の関わり、容器包装の役割、容器包装の今などについて楽しく知ることができました。そして、容器と環境の関わりコーナーでは、ゲームで分別の大切さを遊びながら体験でき、使い終わった容器も、きちんと分ければ立派な資源となることや、資源を大切にして作られる容器は、どのように生産され、届けられ、再資源化されるのかを学べました。最後の缶詰ラベルコレクションでは、明治時代からの代表的な缶詰ラベルを展示しており、缶詰が主に輸出用だった

ころの紙ラベルには、日本製をアピールするために日本製の女性や富士山が描かれるなど、ラベル1点1点が当時の日本を垣間見ることができそうです。短時間の視察でしたが、文明の誕生と容器の関わりから、最新技術を駆使した容器包装まで、その歴史や技術、工夫などを楽しく見学できました。

今後も環境学習施設研究部会では、日帰り視察研修会を開催する予定です。普段の見学ではなかなか知ることができない施設のお話を、担当の方々に聞くことができる研修会に、機会があればぜひご参加ください。

(環境学習施設研究部会) W